

■大倉山小学校の実践

(1) 研究内容

グローバル社会において、個人や社会の多様性を尊重しながら、主体的に社会で生きていくための人権意識の基礎を養うために、文化や言語、年齢、性別を超えて人々と接する態度や心情、そしてグローバルな視野の広がりを培う。

(2) 学習を通して育てたい力

- ・世界各国の言語や文化の違いを知り、よさを見付けていく力
- ・相手を尊重し、ふさわしい態度でコミュニケーションを図る力
- ・身近な人たちとの関わり方を見直す力

(3) 実践の内容

【実践】「世界に心をひらいて～JICA 研修員の方々との交流～」について

○ねらい

(交流場面でのねらい) 様々な背景をもつ外国の方々との実際の交流を通して、コミュニケーションの大切さを実感させる。

○学習内容

- ① (事前) 研修員の方々の国について調べる。
- ② (事前) 研修員の方々の来日目的を理解したうえで、伝えるべき日本の文化などについて交流する内容を考える。特に、自分たちの住む地域については、その特色やよさをリーフレット形式にして作成する。
- ③ (事前) 今までに獲得した英語表現をもとに、リーフレットを活用するなど、どのように伝えていくか考える。
- ④ (交流) 1名の研修員に対し6名程度の少人数で、準備してきたことを生かして交流する。
- ⑤ (事後) 日常や、将来につなげていくために、交流で感じたことを共有する。

(4) 成果と課題

①成果

- ・言葉に不自由するからこそ、一生懸命伝えようと、表情や身振りなどコミュニケーション手段を駆使して伝えようとする姿が見られた。
- ・文化や言葉の違いを越えてコミュニケーションを図る経験が、この活動以外の場で、物おじしない態度となって表れるようになった。

②課題

- ・本校には外国から来ている保護者の方が多いので、その方々からお話を聞く機会をもつなど、より身近な人々との関わりを通して、文化の多様性を理解させていきたい。

